

IV. 国際展開

①海外拠点の共同設置、学生交流や国際共同研究の推進

②コンソーシアムを通じた国際共同教育プログラムの実施

③その他、国際展開に関する複数大学等の連携・協働による取組

大 学 名		北見工業大学
分 類	大 分 類	国際展開
	小 分 類	②コンソーシアムを通じた国際共同教育プログラムの実施
他大学等の参加の可・不可		その他
取組（事業・制度等）名称		モンゴル工学系高等教育支援事業 モンゴル科学技術大学とのツイニング・プログラム
取 組 概 要	概要・目的	モンゴル科学技術大学と日本のコンソーシアム加盟大学との間で学部カリキュラムの見直し及び3年次編入学を通じた人材育成を実施することを目的として実施している。日本国内の工学系10大学がコンソーシアムを形成し、モンゴル科学技術大学と共同で両学部の新カリキュラム開発を行い、このカリキュラムによりモンゴルで2年以上学んだ両学部それぞれ40人計80人程度の学生を日本の大学で3年生として受入れ、学位を取得させる内容となっている。
	始 期	平成27年9月
	終 期	
	関係機関 (大学・自治体・企業等)	外国側：モンゴル科学技術大学 日本側協力大学：長岡科学技術大学（幹事校）、豊橋技術科学大学、名古屋工業大学、京都工芸繊維大学、北見工業大学、九州大学、熊本大学、九州工業大学、山口大学、和歌山大学
	成 果	本学では、本年4月から3年次編入学生3名を受け入れた。モンゴルで2年以上日本語を含めた教育を受けているため、日本語での会話に関してはほとんど支障がない。目標としている日本での学位取得に期待している。また、日本コンソーシアム会合も定期的の実施しており、加盟大学間の情報共有も十分できている。
	その他特記事項	本プログラムは、NPO法人アジア科学教育経済発展機構（Asia SEED）が両国の協力支援団体となり、本事業の日本留学に係る担当を行っているので非常に便利である。

大 学 名		福島大学
分 類	大 分 類	国際展開
	小 分 類	②コンソーシアムを通じた国際共同教育プログラムの実施
他大学等の参加の可・不可		参加不可
取組（事業・制度等）名称		文部科学省「大学の世界展開力強化事業（トルコ）」GLOCAL AGE 2020（経験・知恵と先端技術の融合による、防災を意識したレジリエントな農学人材養成）
取 組 概 要	概要・目的	「GLocal Age 2020」は、日本とトルコの農業及び防災分野の課題をしなやかに解決する能力「レジリエンス」を持つ人材育成を目的とした事業で「文部科学省平成27年度大学の世界展開力強化事業（トルコ）」に採択されている。 本事業は、新潟大学農学部、同大学大学院自然科学研究科および災害・復興科学研究所と、福島大学が共同で実施し、トルコ側の連携大学（アンカラ大学、エーゲ大学、及び中東工科大学）と共に「農業」と「防災・復興」の二つの分野で教育研究交流を行っている。
	始 期	2015年度
	終 期	2019年度
	関係機関 (大学・自治体・企業等)	新潟大学、福島大学、アンカラ大学、中東工科大学、エーゲ大学
	成 果	【学生受入】H27年度からH30年度9月までに、短期（2－4週間）で合計51名の学生がトルコ3大学から来日し、新潟大学及び福島大学にて、農学・防災分野で学びを深めた。また、中・長期（3－12か月）でも16名の学生がトルコより来日し、新潟大学において専門分野の研究を行った。 【学生派遣】H28年度及びH29年度夏に、日本から合計30名の学生をタイ・チェンマイへ短期で派遣した（トルコへの派遣を予定していたが、当時のトルコ国内情勢の影響で、チェンマイ派遣に変更。チェンマイへトルコの学生・教職員も招聘し、タイ・日本・トルコの三ヶ国での交流を行った）。H29年度春からトルコへの学生派遣を開始し、短期ではH30年3月に7名、同年9月に18名を新潟大学及び福島大学からトルコへ派遣。中・長期でも、H30年度に計3名の学生をトルコへ派遣し、現地で学生は研究とインターンシップを行う。
	その他特記事項	事業ホームページ： http://www.agr.niigata-u.ac.jp/~glocal/ja/

平成27年度 文部科学省 大学の世界展開力強化事業（トルコ）

GLocal Age 2020



農・食・防災・復興分野で世界を舞台に活躍

本事業の目的

農学と防災・復興の教育研究で実績を有する日本・トルコ5大学が

それぞれの強みを結集

《事業主幹校》

新潟大学

農業復興・防災・災害
復興に貢献
国内外インターンシップを含む
農食専門人材育成

=新潟・福島=
日本を
代表する農業県



福島大学

災害復興を担う
グローバル人材育成
地域産業復興に貢献

《現地幹事校》

アンカラ大学

トルコ農学教育の権威



エーゲ大学

トルコの
有機農業を担う

中東工科大学

中東の
防災教育を先導

世界で初めての
相補的・相乗的
連携を実現

先導的農学教育フレームワークを構築

経験・知恵と先端技術の融合

グローバル(GLocal)な視点でしなやかに対応できる能力
=“レジリエンス”を有する農学人材を養成



グローバル農力養成プログラム

「農力」...地域社会への積極的な貢献を
通しての農学分野における課題解決能力

有機農業
大規模経営
食文化の違い
農業ICT
農産物の国際
競争力強化
スマート農業
バイオテクノロジー

グローバル防災・復興プログラム

防災、減災及びBuild-back Better
のための備えの構築

ハザードマップ リスクマップ
土着技術(Indigenous
Engineering)の活用
Business
Continuity Plan

日土共通の
課題

日土両国が持つ経験・知恵と先端技術
農・食・防災・復興の複合的視点の醸成

レジリエンスの獲得

農・食の
課題解決防災・復興の
課題解決

短期コース(2~4週間)

ローカルな課題をグローバルな視点から議論し、解決策を
提案するグローバルな課題解決型プログラム。
対象学生：学部生、大学院博士前期課程学生

中期(3~5ヶ月)/長期コース(6~12ヶ月)

特定の課題の追求に重きを置き、現地指導教員のもとで
研究活動を実施
対象学生：大学院博士課程前期/後期学生



大 学 名		東京海洋大学
分 類	大 分 類	国際展開
	小 分 類	②コンソーシアムを通じた国際共同教育プログラムの実施
他大学等の参加の可・不可		参加不可
取組（事業・制度等）名称		大学の世界展開力強化事業A-② キャンパス・アジア（CA）事業の推進「日中韓版エラスムス」を基礎とした海洋における国際協働教育プログラム
取 組 概 要	概要・目的	海洋の持続的開発と利用に関わる分野において、相互理解を深める学生の双方向教育と問題解決の高度な専門能力を付与するための大学院レベルでの質的保証を伴った日中韓大学交流の実現を目指すものであり、ボローニャ・プロセスに準拠した日中韓における単位互換制度（「日中韓版エラスムス」）を構築して質保証を達成し、国際的な高度専門職業人を養成する。このような日中韓の協働教育を行うことで、日中韓の海洋分野における高等教育機関としての世界的なプレゼンスを高める。そのために、上海海洋大学（中国）、韓国海洋大学校（韓国）及び本学が中核となるコンソーシアムを構成し、ショートタームプログラム、国際協働教育プログラム、ダブルディグリープログラムを単位互換制度に基づき実施している。
	始 期	平成28年11月
	終 期	平成32年3月
	関係機関 （大学・自治体・企業等）	中国：上海海洋大学（SHOU） 韓国：韓国海洋大学校（KMOU）
	成 果	本事業を軌道に乗せるにあたり、3大学間で平成28年度から6回に渡りOQEANOUS協議会にて協議を行い、日中韓の各大学における大学院教育の独自性を保持した統一基準の単位互換システムであるCTSEA (Credit Transfer System in East Asia) ガイドラインを策定した。本事業は、3大学の協定及び本ガイドラインをベースに実施されており、質の保証を伴った学生の派遣・受入の実現に繋がった。
	その他特記事項	WEBサイト： https://www.g2.kaiyodai.ac.jp/oqeanous/program/ddp.html

大 学 名		信州大学
分 類	大 分 類	国際展開
	小 分 類	②コンソーシアムを通じた国際共同教育プログラムの実施
他大学等の参加の可・不可		参加不可
取組（事業・制度等）名称		信州大学博士課程教育リーディングプログラム ファイバールネッサンスを先導するグローバルリーダーの養成
取 組 概 要	概要・目的	繊維・ファイバーは衣料分野にとどまらず、建築・土木、航空機などの輸送体、電気・電子材料、健康・医療など、これら日本の産業基盤を支えている広範な分野と関連している。繊維・ファイバー技術を他の先端分野技術と融合させるため、信州大学の有する国際ネットワークを最大限に活用し、原料からプロセス、システム、評価までのすべての専門知識を備えるとともに、広く総合的な専門性を有し、広い科学技術的視野と国際感覚、コーディネート力、人間力を備えたグローバルリーダーを養成することを目指している。 これにより、日本唯一の繊維学部から、物・人・情報の受発信基地としての“ハブ”機能を有する世界ナンバーワンの繊維系教育研究機関として発展することを目的としている。
	始 期	平成25年度
	終 期	
	関係機関 (大学・自治体・企業等)	東京大学大学院、京都大学大学院、東京工業大学大学院、東京農工大学大学院、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構、欧州繊維系大学連合（AUTEX）、米：ノースカロライナ州立大学、英：マンチェスター大学、仏：国立繊維工芸工業高等学院（ENSAIT）、独：ドレスデン工科大学、澳：ウィーン天然資源大学、中：香港理工大学、蘇州大学、印：インド工科大学、新：シンガポール国立大学、経済産業省、日本化学繊維協会
	成 果	M1年次でのウィーン天然自然大学、M2年次でのチュラロンコン大学との共同ワークショップ、海外教員による講義、3年次(D1)での3～6ヶ月の海外大学でのインターンシップ（いずれも必修科目）などを通して、国際感覚および多言語によるコミュニケーション能力を備え、ファイバー分野において国際的に評価の高い研究、幅広い分野の企業でリーダーとして活躍できる人材が育ちつつある。すでに2名の修士生が出ており、日本の大手企業の研究者として活躍を始めている。本プログラム履修生の2名がフランスENSAITとのダブルデGREE取得者であり、現在1名を新たに2年間の予定で派遣している。
	その他特記事項	来年度（2019年度）のウィーン天然自然大学(BOKU)との共同ワークショップは、5月にBOKUから博士課程学生および引率教員十数名が信州大学を訪れ、上田において開催し、また、9月に信州大学生がBOKUを訪問しワークショップを開催することが決まっている。本プログラム修了要件として学生に高い英語能力（TOEIC800相当以上）を要求しており、留学生は英語能力ともに日本語能力も進級評価の対象となっている。また本取組の詳細はウェブサイトで紹介している。 http://www.shinshu-u.ac.jp/project/leading/

大 学 名		名古屋大学
分 類	大 分 類	国際展開
	小 分 類	②コンソーシアムを通じた国際共同教育プログラムの実施
他大学等の参加の可・不可		その他
取組（事業・制度等）名称		MIRAIプロジェクト
取 組 概 要	概要・目的	日本・スウェーデン間の学術交流・連携の更なる発展を目指すため、本学を日本側の幹事校として、国内8大学とスウェーデン国内7大学が共同で、MIRAIセミナー及びSubject Scientific Committeeの実施、研究者やPhD学生の交流等を行っている。
	始 期	2017年
	終 期	2019年
	関係機関 (大学・自治体・企業等)	日本側メンバー校： 広島大学、北海道大学、九州大学、名古屋大学、上智大学、東京大学、東京工業大学、早稲田大学 スウェーデン側メンバー校： チャルマース工科大学、ルンド大学、ウメオ大学、ウプサラ大学、リンショーピン大学、ストックホルム大学、ヨーテボリ大学
	成 果	昨年はスウェーデン側でセミナーを開催し、本年は日本でセミナーを開催し基調講演や研究者によるパネルディスカッション、助成機関による協議を行い日瑞の研究状況を相互に理解することができる。またエイジング、サステナビリティ、マテリアル・サイエンス、イノベーションのテーマを儲け、各テーマごとのワークショップを開催することにより、日瑞の研究者が交流できる機会を設けることができた。
	その他特記事項	今年は日瑞外交関係樹立150周年に当たり、MIRAIセミナーというアカデミックなイベントが外交面でも注目されており、本年の日本でのセミナーでは開会式において日瑞の研究、学術交流を取りまとめた文書の署名が両国政府の代表により行われる。なお、上記の小分類には国際共同教育プログラムとしているが、教育だけでなく研究交流の意味合いが大きい。

大 学 名		和歌山大学
分 類	大 分 類	国際展開
	小 分 類	②コンソーシアムを通じた国際共同教育プログラムの実施
他大学等の参加の可・不可		その他
取組（事業・制度等）名称		ベトナム国ハノイ工科大学とのツイニングプログラム日本コンソーシアム
取 組 概 要	概要・目的	長岡科学技術大学他の大学が参加して進めて来ていた「ベトナム国ハノイ工科大学とのツイニングプログラム」に関し、和歌山大学は2016年度から日本コンソーシアムに加盟登録し、当プログラムの中で、システム工学部に留学生を受け入れている（3年次編入）。
	始 期	2016年8月（和歌山大学の加盟登録時期）
	終 期	
	関係機関 （大学・自治体・企業等）	長岡技術科学大学、名古屋工業大学、岐阜大学、豊橋技術科学大学、群馬大学その他、三重大と北見工業大学も会員となって、共同での人材育成プログラムに取り組んでいる。
	成 果	当プログラムを活用しての、ハノイ工科大学から和歌山大学への編入留学生実績は2名であるが、今後もコンソーシアム加盟の他大学と協力しながら、学生の受け入れとともに、教員による教育・研究分野等での活動が予定されている。
その他特記事項		プログラムの詳細については、幹事校である長岡技術科学大学に確認願いたい。 https://www.vn.emb-japan.go.jp/files/000358370.pdf

大 学 名		九州大学
分 類	大 分 類	国際展開
	小 分 類	②コンソーシアムを通じた国際共同教育プログラムの実施
他大学等の参加の可・不可		その他
取組（事業・制度等）名称		福岡－釜山 8 大学間学生交流プログラム
取 組 概 要	概要・目的	福岡市及び釜山広域市の友好協力関係を安定的に発展・強化させるため、平成 18 年度に、両地域の大学や産業界等の各界を代表するリーダー（現在 27 名）による提言機関として、福岡－釜山フォーラムを設立している。本フォーラムにおける提言を受けて、福岡及び釜山の大学それぞれ 4 校、計 8 校による学長会議を平成 30 年 5 月に福岡で開催し、両地域における大学間の交流を促進するため、学生交流プログラムを実施することを決定した。本プログラムでは、8 大学の学部生を対象として、福岡及び釜山両地域におけるフィールドワークや企業訪問を組み合わせて行い、最終日には釜山で開催された福岡－釜山フォーラムにおいて、参加学生による成果発表を行った。
	始 期	平成 30 年 8 月 26 日（日）
	終 期	平成 30 年 9 月 2 日（日）
	関係機関 （大学・自治体・企業等）	（福岡側 4 大学）九州大学、福岡大学、福岡女子大学、九州産業大学 （釜山側 4 大学）釜山大学校、東亜大学校、東西大学校、釜慶大学校
	成 果	本プログラムは、福岡及び釜山両地域の複数大学による学生交流プログラムとして実施されおり、今後の学生交流における連携の可能性を拡大させた。また、福岡及び釜山の両地域の参加学生が共同生活を行いながら、福岡及び釜山の両地域で学生交流プログラムを実施することにより、お互いの歴史・文化等について理解を深めるとともに、両地域の未来を担う若者たちが友好関係を築く良い機会となった。
	その他特記事項	参加大学は、福岡・釜山地域の大学に限られる。